

『日本誕生の女神』完成

庄原市北部は日本神話のルーツ
生涯学習課文化財係 ☎0824・73・1189

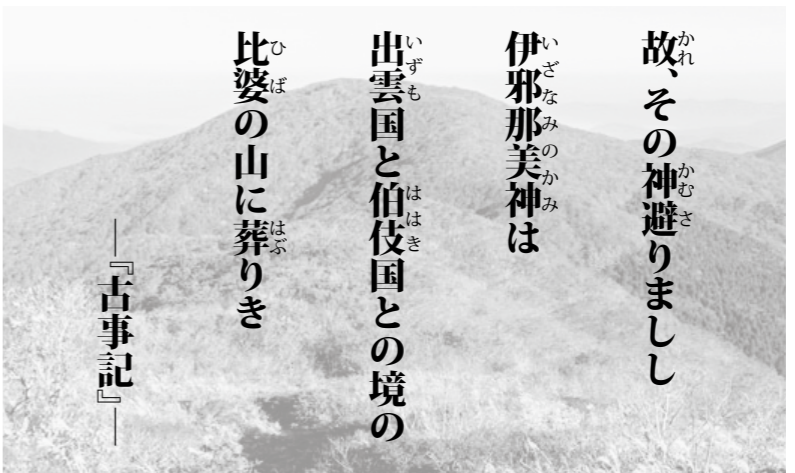
故、その神遊りましし

伊邪那美神は

出雲国と伯伎国との境の

比婆の山に葬りき

『古事記』



この地から比婆いざなみ街道物語がはじまります

「古事記」にある、日本誕生の女神・伊邪那美命が葬られた地として伝わってきた「御陵」。御陵は、広島・島根・鳥取の三県が隣接する、標高1200メートル前後の山々が連なる比婆山連峰にあります。知られざる神話や伝説地を巡る山旅の魅力をも、日本中、さらには世界中の人々に発信し、この地の素晴らしさを知ってもらいたい。地域に眠る資源を市民の手で再発見し、地域への愛着や誇りを取り戻し、人づくり・地域づくりにつなげたい。こうした願いのもと、御陵と熊野神社をはじめとする比婆山信仰、植生などの自然、歴史的背景などを調査および整理し解説した冊子を作成し、地域資源として活用するため、「第2期庄原いちばん基本計画」に重点事業として位置づけ、編集を進めてきました。



このたび「日本誕生の女神 伊邪那美が眠る比婆の山」という本が完成し、出版の運びとなりました。木山耕三市長、庄原市比婆山熊野神社解説本編集委員会の金沢成三委員長、伊藤之敏委員長、牧原明人教育長に、この本に込めた思いや今後の展望を聞きました。

教育長 牧原 明人



本を読み比婆山探訪を！

日本誕生の女神が眠る比婆山を訪ねてみませんか。このたび比婆山・熊野神社にスポットをあて、庄原の魅力を再発見し、郷土への愛着と誇りがもてる本を刊行できました。比婆山周辺文化財の資源や価値が、歴史研究家や地元で精通している編集委員の皆さんによって整理され、「比婆山学」を導き出した画期的な本です。この本を読むと、新たな発見と驚きの連続で、歴史の魔力に誘われ不思議な世界に引き込まれます。「よし！比婆山を訪ねてみよう！」「もっと調べてみよう！」と、気持ちが高まってきます。

市教育委員会では、郷土の貴重な資料を盛り込んだ本書を、学校や図書館、自治振興センター、さらには全国の書店に置き、市民の皆さんはもちろんのこと全国にも庄原の魅力を発信したいと思っています。また、次代を担う子どもたちにも、本書を通してふるさとの宝に大いに関心と興味を持って活用を働きかけたり、歴史と神話、豊かな自然環境に包まれた同じような環境にある三重県熊野市、島根県安来市・奥出雲町などの人たちと交流や学び合いが始まったことも伝えたりして、今後の活躍に期待しています。

副委員長 伊藤 之敏



比婆山学への期待

現在、自然とのふれあいや景観の美しさ、歴史的遺産、神話・伝説などもたらず価値が改めて見直され、高く評価されています。地域の魅力を発掘・発信する「地域学」の取り組みが進み、全国で40件以上の多彩な事例があります。東北学や熊野学、出雲学などはその代表例でしょう。

私たちも、足元にある地域資源を再発見し、地域おこしや地域活性化につなげていくための、地域学としての比婆山学の創出を念頭において編集にあたりました。

執筆は、『古事記』研究の第一人者である三浦佑之先生、「出雲学」の提唱者である藤岡大拙先生をはじめ、「みえ熊野学」の三石学先生など第一線で活躍する執筆陣22人にお願ひし、最新の研究成果にもとづく比婆山・熊野神社や神話の魅力を知りやすく解説しました。

この本は、比婆山周辺の魅力を理解するための入門書であると同時に、比婆山学の初めての手引書でもあります。自然・歴史・文化の教材やガイドブックとして活用していただき、興味のある章や項目からページをめくり、読み進めていただくと幸いです。

庄原市長 木山 耕三



ふるさとに眠る聖地をまちづくりに生かす

数年前、和歌山県の熊野三山を訪ねる機会がありました。熊野三山は平安時代以降、国家的な祭祀の場として崇敬された巡礼の地です。また、三重県熊野市の「花の窟」は、「日本書紀」の一書にイザナミノミコトを葬った場所と伝わります。ご当地では、これらの地域資源に学び、まちづくりに生かす「熊野学」の活動に早くから取り組んでおられ、その活動は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として実を結び、今では世界中から多くの人々が訪れています。

一方、私たちのふるさと庄原市にも、知られざる「古事記」の聖地が眠っていました。それは、日本誕生の女神を祀る比婆山（御陵）と、悠久の巨杉の社叢（※）に守られた遥拝所の熊野神社です。比婆山連峰は、自然や歴史、人々の暮らしや文化に裏打ちされた資源にあふれています。これらを生かしたまちづくりへの思いを込めて、この本を作りました。

地域の宝を磨き、歴史と文化に学び、未来への新たな産業を興そうではありませんか。“温故知新”による、この新しい地域づくりの手法を「比婆山学」と命名し、推進します。

委員長 金沢 成三



■庄原市博物館・資料館運営協議会会長
■比婆科学教育振興会会長
半世紀を超える比婆科学の研究と比婆山学への歩み

比婆山連峰周辺では、半世紀以上にもわたり、自然・歴史・文化への研究が進められてきました。その先導役が比婆科学教育振興会であり、西城町郷土研究会でした。

比婆科学教育振興会は、戦後間もない昭和22年（1947）年、旧制格致中学校の科学部に、科学教育の振興を目的に設立されたのが始まりです。57年前、初代会長の広瀬繁登先生も、比婆道後帝釈国定公園指定の契機となった「比婆船通道後帝釈郷土科学資料」に、同会の発足が「郷土の自然科学の総合共同研究を自途とし、理科教育において最も恵まれた身の資料を整理することによって、その分野の伸展に資すると共に、やがては郷土の生産開拓の礎石となることを念願したもの」と記しています。

また、西城地域には、比婆山・熊野神社を含め、地域の自然・歴史・文化を総合的に調査研究し地域活性化に役立てている西城町郷土研究会の長い歩みがありました。

比婆山学は、こうした市民主体による半世紀を超える地域研究の歴史を背景とし、将来へ向けてこれらを発展的に継承する地域活動として位置づけられるものです。

平成28年度文化財ガイド養成講座を開講しました

比婆山学の展開へ向けて、市教育委員会は本年度、文化財ガイド養成講座を開講しています。「比婆いざなみ街道」の沿線文化財群にスポットを当て、主に「日本誕生の女神」の執筆者を講師に招きました。地域の歴史・文化・自然、そして「古事記」の世界について理解を深め、ガイドとして活動することを目指す26人が受講しています。

第1回（9月11日）は比和自然科学博物館で行い、「比婆山学への誘い」と題し、比婆山周辺の民俗や自然について学びました。第2回（10月1日）は吾妻山で現地研修を行い、歴史と共に移り変わった吾妻山の景観について学びました。

今後開講する講座（文化財ガイド終了証交付なしで一般参加できます）

【第3回】
出雲人が憧れた中国山地と、聖地・比婆山（書籍「日本誕生の女神」出版記念リレー講演会第1弾・比婆いざなみ街道文化財講演会）

講師
NPO法人出雲学研究所
藤岡大拙さん（荒神谷博物館館長）
とき
10月10日（月・祝）
15時30分～17時
ところ
ウイール西城

【第4回】（※） 神々を慰める神楽

講師
三村泰臣さん（広島民俗学会会長）
・比婆荒神神楽保存会
とき
11月19日（土） 14時～16時
ところ
田森自治振興センター

【第5回】（※） 高天原の神々を訪ねる（現地研修）

講師
比婆山伝説ガイド「ツイハラのかい」
とき
12月7日（水） 13時30分～16時
ところ
西城町内現地見学（バス）

※第4回、第5回に一般参加する場合は、あらかじめお問い合わせください。

問い合わせ

生涯学習課文化財係
☎0824・73・1189

【書店での販売】
価格 本体1800円
【庄原市役所での販売】
▼先着300部
販売価格 1800円
生涯学習課または各支所教育室